

自己評価票

(別添様式3)

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	特定非営利活動法人 幸の里
(ユニット名)	グループホーム 幸の里
所在地 (県・市町村名)	岐阜県羽島市下中町城屋敷579 - 1
記入者名 (管理者)	小川 月子
記入日	平成20年2月20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	農村地帯の古民家改造ホームであり、開設者の長年にわたる近隣付き合いの継続があり、開設時より密なる地域密着型ホームであったことより「大家族」形式を理念と掲げている。		グループホームが介護保険制度の中に導入されてきた経緯及び目指す方法に近づけるため、もっと開けた施設へもって行きたく、認知症の相談および治療に尽くすため、通所、居宅支援を開設する予定である。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に、当施設の理念を掘り下げて説明し、理解してもらった後、採用を決めている。またミーティング等に、具体的ケアについて意思統一を図っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報紙等の啓発は行っていないが、村内の認知症者に「幸の里へ行って、ご飯を食べさせてもらいなさい」と誘導してもらえらるまでに浸透している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日課とする散歩等で気軽に話せる間柄を構築している。また、避難訓練時には、事前に訓練を予告しないと駆けつけてもらい迷惑を掛けるような関係を構築できている。		農作業中であると靴を脱ぐのが面倒であり遠慮される場合がある。そのため、お茶をしてもらえようように玄関先を開放し、近隣の老人の喫茶サロンを建築中である。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、運動会、盆踊り、報恩講など積極的に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケア専門士として、認知症の家族、民生委員、ケアマネ等より困難事例を受けており、更なる取り組みとして、通所、居宅支援を開設申請中である。		困難事例相談から治療への道筋をつけたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの性質、意識等の理解を深め、利用者を理解し、サービスの質の向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、幅広い立場の人に参加してもらおうと同時にイベントに参加してもらい、認知症をより理解してもらい、認知症の暗いイメージを認知症を楽しめるようイメージチェンジを図っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日本に36名しかいない認知症専門医を招いての幸の里セミナー等の参加、イベント等の参加にて認知症の理解は深まってきていると思われる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	農村地帯で未だに古い風習が残っており「家族が観るもの」の概念が残存しており、権利擁護、成年後見制度が必要な事例には出会っていないが、精神保健福祉士など精神科勤務歴があるスタッフ3名が対応できる体制になっている。		精神科入院時の保護義務者専任手続きの方が事例として多く、スタッフの研修を行わないといけないと思っている
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等でストレスの解消法を話している。またストレスを生じる利用者に対しては精神科と医療連携を取っている。これを継続していきたい。		高齢者虐待防止法の勉強会をしたいと思っている(法令説明)。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にケアに対する考え方、取り組みに対して説明しているが利用者の状態変化などに、再度説明し柔軟な対応をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議等で外部の人を交えて、要望・意見等を表せる機会を設けているが、当施設は全員が言いたい放題でその中から要望を満たす様、企図している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時が主であるが、暮らしぶりや健康状態の報告はしている。金銭管理に対しては契約時より行わない方針を説明し、全くしていない。職員の異動に対しては積極的にこちらから説明していない。</p>	<p>定期的に瓦版を発行したいと思いつつも、日常的介護が優先してしまい、未だ発行できない状態を改善したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>3～4年の入居者が主となり信頼関係が出来上がってしまい、「おまかせ状態」である事が故に何でも言える関係を損なっていることもあり再度、見直しを必要とする。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>元職場の同僚という関係であるので言いやすい関係にあると思うが、他の職種の人への配慮に心がけ、ミーティング(休憩、食事など)時に話し合って決定はしている。</p>	<p>介護、看護などには『阿吽の呼吸』が必要で新しいスタッフ養成に今全力で取り組んでいる。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>近隣の職員、単身者などのスタッフが主である事と、管理者が24時間利用者とともに生活しているため、緊急時など迅速な対応が出来るシフトとなっている。</p>	<p>スタッフが高齢となってきたこともあり、次世代の若いスタッフを養成したい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>1ユニットで異動はないが、離職に対してはなかなかと難しく、又、管理者が24時間利用者と共に生活しており、家族関係が構築されていること、古い馴染みの職員が毎日2名程度勤務するシフトになっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	養成した職員は一身上の都合で退職、現在新人3名を育成中であり個々のケースに対して論理的に説明しているが、高齢者である点など苦慮している1名は3月よりヘルパー受講予定。又、管理者候補はほぼ育成できた。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などによる交流はあるが、更に密なる交流を図りたいと計画したがまとまらず、中の良い管理者とは花見会、セミナーなどで交流を深めている。	昨年度末、グループホーム協議会支部と当施設の協賛で、藤田保健衛生大学病院認知症専門医の真鍋先生のセミナーを開催。来年度真鍋先生が東京神経センターから戻られた後、再び開催をお願いする予定。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの解消方法等を説明したり、食事会などを開いたりしている。昨年は韓国・濟州島旅行を行った。利用者のことに対するストレスはあまりないと思われるが、他の病気の人が入居時は早急に専門医受診させることとしている。	今年は東北八幡平へ行く予定である。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心のあるスタッフに対しては日本認知症ケア学会員にしたり、資格取得の費用を当施設が持って積極的に支援しているが、高齢者スタッフに対する理解で苦戦中。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困難事例が多く、家族及び地域などの相談が主となり、本人からは入所後全体把握後じっくりと解決に働きかけることとしている。この方法で9名全員が家族として生活を共にしており、利用者と職員との壁はない。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記のような方法で開設時から運営してきた。最初は利用者の娘さんから『父のことは別として私個人として相談にのってほしいし、出入りさせてほしい、この施設にいると元気が出る』と言われる程度の気さくな関係となった。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	藤田保健衛生大学病院認知症専門医との医療連携を蜜としている関係より、市福祉課、他施設、ケアマネなどの困難事例が主となっており、先ず急性期対応を行いその後他のサービス利用を含めた生活拡大支援を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設当時は本人家族などの見学、体験をしてもらい、納得して入所してもらっていたが、平成18年に地域密着型になってからは急性期対応が主となったため、本人が納得してと言うわけには行かない点もあるが、古民家を利用していることが大きな助けとなり、入所時より落ち着きを持っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開設するに当たり『人として生きること、すなわち喜怒哀楽を表現すること』との信念で始めたことであり、良いことと悪いことを共有できる関係、すなわち大家族構築は出来たと自負している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	上記と同じで、一つ屋根の下で寝起きし、一緒のものを食べ、一緒に喜び、一緒に心配し、家族として生活している。むしろ本当の家族の方に距離が出来てしまったところがある。先ず、帰りがたがらない。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外泊、外出を薦めているが、すぐ帰ってきてしまい当施設が自分の家となっており、それを無理に推し進めることはやめ家族に来てもらう方策にしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人たちの訪問なども受け入れているが、最近訪問者も高齢になり道中危険が予想され、ちょっと遠慮してもらっている。長い入居者は施設近隣の人が馴染みの人になってしまった。		玄関先を拡張し、コーヒーなどを自由に飲めるテラスにして土足でも入居者と馴染んでもらえる様建設中。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	この点には全く問題なく、利用者同士がわいわいやって社会性を維持しており、問題が生じたときのみ職員が関与することになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院中も主として当施設がケアをしていくシステムをとっており、他の施設に入所後も交流はあり、イベントなどにも参加してもらっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアをモットーとしているが、9名の大家族の共同生活であるための最小限必要な事は守ってもらっている。その他に対しては個々の自由に過ごしてもらっている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	開設当初はインテークしていたが、家族は断られては困ると言うことか、なかなか本当の情報を出してもらえないため、信頼関係が成立後と必要時に生活歴などを聞くことにしているし、入居者の観察をしっかりとしていれば自ずと把握できるし、汲み取れる。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間生活を共にしているので身体状況、心理状況などは把握できている。一番に表情の読み取りに心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その日その日、その時間その時間の身体状況、心理状況に応じてケア変更が生じるため、介護計画は家族と共にこの方向に向けて介護したいと説明し、細部及び変更に対しては家族に連絡相談している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急性期の場合は一刻一刻に変化が生じケア変更があるため、一日に何枚ものケアプランが必要となるため上記の様な介護計画としている。安定期の場合は介護計画通りに行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護日誌に時系列に食事、水分量、排泄など身体状況のみならず心理状況もエピソードを添えて記録しており、特にケアプラン作製に必要な事は赤字で記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院等柔軟な対応をしているし、近隣の認知症高齢者にも門戸を開き、共に食事をしてもらったりしている。		認知症対応型通所介護、居宅支援事業も開設し、困難事例等の相談を受けていけるように申請中。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	当施設は村落共同体が残存している地域にあり、民生委員のみならず近隣住人からの差し入れ、芋堀り、野菜採りなどの協力を得て成り立っており、感謝の念に絶えない。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議のメンバーである市議会議員の協力を得て、温泉などの利用をさせてもらっている。又、町内会のイベントに参加させてもらっている。		配食サービスを一度利用したいと計画している。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの研修などに参加してもらっているが、入所研修などには満床で未だ協力させてもらえない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、通院などの支援は、家族の希望から主に当施設が行っており、医療連携には密なる関係が構築されており、24時間ドクターの指示を受けられる体制と共に、ドクター、看護師の訪問も受けられるような体制をとっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	藤田保健衛生大学病院認知症専門外来の柴山教授、真鍋医師の診察、治療が受けられる体制が構築されており、現在9名全員受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	精神科勤務20年のベテラン看護師2名と、内科勤務の看護師を非常勤職員としており、日常の健康管理のみならずメンタル部分においても支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはサマリーを提出し情報を提供し、1日1回見舞い面会を行い、早期退院に協力している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに対しては本人、家族の希望は把握しているが、現実には二転三転するため、その都度、医療、家族、本人と話し合って進めてきたし、今後もその方針で進めたい。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記の通り、本人、家族の意向を踏まえて医師、職員、特に看護師の意見を組み入れ、万全の措置をしながら取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設などに替わられる場合、細部にわたる情報提供を行っており、他の施設からの要請があれば訪う方針であり、訪問したケースもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>9名の共同生活であるため、ある程度のプライバシーは共有したりして仲間意識を高め連帯性を持つようにしているが、急性期の不穏時などに対する対処に反省するべき点もあり、改善を図りたい。</p>	<p>急性期の対応などに対する研修をしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>言いたい放題で施設で要求も多いが何々と満たしてあげる事が出来なくなってきた。認知症の進行に差が生じ、十分に社会性を持っている人と社会性を失った人の2つに別れ、双方を満たすことが出来なくなって苦慮している。</p>	<p>かつて、まだ十分に社会性を持っている人は別に1～2回外出等を許していたが、現在職員の介護力に余裕がなく、中止しているが職員の育成が出来次第、再開していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、それ以外は自由に好きなことをしている。又、個別ケア表を作成し、個々の生活を大事にしている。</p>	<p>管理者の理想として、もっとゆっくり生活を楽しめるようにしたいが、利用者は余り気乗りしていないようで、今後説得していきたい。かつて茶道等をしていたが、地域密着になってから茶道を嗜む人が居なくなってしまった。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的に本人の望む服装や美容院に行っているが、この時代の人には金銭的に細かいこともあり、「タダが一番」と考えて居り、職員の美容になることが多い。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューは利用者の希望を取り入れ、栄養面を考え3～4品と果物、汁物としているが、準備、片付けはやってもらっていないが、下ごしらえ等は手伝ってもらい食事に対する意欲を引き出したり、役割を持ってもらっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物、おやつ、タバコ等は本人の自由にしてはいるが、服薬の関係からお酒はイベント時のみとしている。</p>	<p>近隣の人のお茶のみ場として玄関先のテラスを開放し、交流を深めたいと思っているが、コーヒーなど制限がある人もあり、今後の問題を抱えている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間の転倒防止の為、各部屋にポータブルを設置しているが、昼間も自ら排泄している人が多くなり、オムツ使用量が減ってきているが、水洗便所使用の良さが無くなってきている事に問題を残している。		排便を忘れてしまう人がほとんどで、便通のない時のイライラ・苦痛感を考えると職員が排便状態を知る必要があり、苦慮しており、未だ解決策が見つかっていない。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に一日おきの午後からの入浴を決めている。入浴には危険が伴い、利用者の希望どうりには出来ないが、夫婦で入浴してもらったり、仲の良い人と共に入浴したり、あみだくじで入浴順序を決めたりし、別の意味での楽しみ方をしている。		見守りで入浴が出来る人が少なく、全介助をを要する人が多く、スタッフも充実させ最善の注意を払っている。又、温泉旅行も行って入浴を楽しめるようにしているが、近隣の温泉は、あまり快く入浴させてくれないため、その理解を得る努力はしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩、体操等で生活リズムを築いているが、時として眠れない場合は眠剤使用もやっている。現在、眠剤使用者は2名居る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おやつ作り、切干大根作り、干し柿作りなど、食べることには興味があり、皆でワイワイと楽しんでいる。又、昔懐かしいメニューを取り入れ、話題作りなどしている。張り合いのある日々は結構疲労が激しく、おだやかに普通に生活することに心がけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてお金は持ってもらわない事にしている。収集癖、浪費癖、物取られ妄想の人が居り、仲間同士のトラブルが生じ、大家族の絆が壊れるため、外出時にはお小遣いで買い物を楽しんでもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当施設は、外へ外へという方針である為、時間が許す限り、散歩、外出を行っており、施錠なく自由に外出できるが、利用者自身が全く出て行く気がない状態である。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望で日帰り旅行、一泊旅行を行っており、今年は京都旅行を終えたところであり、来年は奈良の大仏と鹿に会いに行きたいと希望が出ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話は出来るようにしているが、電話を掛けれる人は1~2名で、職員がまずダイヤルし、家族と話が出来るように支援しているが、それも出来る人は2名程度である。手紙は2名がほとんど字が書けず、スタッフが手伝って行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族のみならず、友人の訪問もあり、時として泊まってもらう事もある。		開設時は、友人や家族の訪問が多かったが、長い期間の入居者は、段々訪問者が少なくなってきて居り、この点に対して何か方策を生じる必要があることは痛感している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で身体拘束に対して説明している。現在、身体拘束を必要とする利用者もいない。かつて発作で転倒が著しい利用者が居たが、現在入院してもらっており必要がない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関先などの施錠はなく、同居する犬の脱走に対してフェンスが施錠してあるが、利用者も家族も自由に鍵を開け、出入りしている。		現在、収集癖、盗癖の人が有り、他の利用者から施錠して欲しいとの希望があり苦慮している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は全室が見渡せるフロアに職員が居り、夜間は、2時間おきに巡視している。又、犬が同居しており、小さな音に対しても反応してくれ、しっかり見張り役をしてくれている。又、夜間のみポーターを使用してもらう方策も行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、洗剤、薬品等は施錠して管理しているが、小ハサミ、ひげそり用の安全かみそりは十分に管理できる人のみとしている。又、必要時に貸し出す方法も行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	命を守るのが、一番の仕事と職員に毎日説明・注意し、事故防止に取り組んでいると同時に身体状況、精神状況から予測される危険性を告げ、最善のケアを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員育成中である事もあって、ベテランを常時配置し、急変・事故防止に努めている。又、新人職員には勉強会等を通じて、一日も早い習得に心がけている。夜間は、管理者が泊まって対応できるシステムを持っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	村落共同体制が残存している地域で、近隣の協力は得られるが避難訓練時には事前に訓練であることを報告しないと駆けつけてくれ迷惑を掛けてしまうような協力体制が構築されている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	病状説明時にリスクに対しても説明し、理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ベテラン看護師を配置し、体調変化把握に努め、異変時には24時間対応できる医療連携体制を構築していると同時に、家族との連絡も密にしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、服薬時には本人に手渡し、きちんと服用しているか確認している。又、副作用等に対しても、ベテラン看護師、薬剤師の指導の下、スタッフ全員が理解できる体制も持っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バイタル表で、排便等の確認をしていると同時に、水分補給、運動、食事にも配慮し、自然排便に心掛けており、浣腸等は現在必要がない。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施している。又、入れ歯の調整等で歯科受診も頻繁に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十品目以上の食材と一日125gの魚摂取を行うと共に、食事、水分チェックを記録している。又、時に夜間の水分補給に心掛けている。体重測定、血液検査は定期的に行っている。		現在、日本認知症ケア学会発表用に、水分補給とせん妄との関係の調査を行っている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内で起こる感染症に対して、全職員に学習してもらい、予防・対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具などの衛生に職員全員で取り組み、実行している。幸いにして新鮮な野菜類を近隣から差し入れしてもらっている。又、冷蔵庫の掃除も毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	古民家を利用した施設で「親しみやすい」と言われている。近隣の人の出入りも有る。		もう一つ気軽なお茶のみ場と認知症を暗いイメージではなく、認知症楽しめる病気にイメージチェンジしたいと考え、玄関先のテラスを建築する予定である。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	藤の椅子やタンスにして、暖かみと安全性に注意を払っていると同時に障子や、すみの戸にしたりして、落ち着いた雰囲気になっている。自室は利用者の好みを取り入れ飾り付けをしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関先のベンチ等で利用者同士が話している。又、日光浴を日課としている利用者もあり、一人一人の居場所が提供できていると思っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に使い慣れた馴染みの物を持参してもらうことになっているが、なかなか理解が得られず、施設側が古い藤の家具等を用意し、落ち着いて過ごせる雰囲気作りを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	古民家利用であるため、換気に対しては問題ない。特に夏季は全室開け放し、施設特有の臭いはない。冬季、換気はするものの便臭がすぐに消せなく、芳香剤を使用している。冬期は20 前後、夏期は28度前後に調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりやポーター等を設置し、安全確保と自立に配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の目印を暖簾で分かるようにしている。又、混乱や失敗が生じた場合、その都度光や音を利用して対応できるように職員と話し合っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキや玄関先のベンチで日向ぼっこを楽しんだり出来るように工夫している。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)